

○ 藤井 徳子 (鳴門教育大学・院)

目的と方法 本研究では、高等学校家庭科に国際的な視野に立つ人権教育を導入し、それによって生徒がエンパワーできる教材を開発することを目的としている。具体的には、まず国連機関が中心となって採択した全 8 種の国際文書の内容分析を行う。そこから抽出した「人権教育の 9 つの視点」を文部省「学習指導要領」普通教科「家庭総合」の中にどのように組み込むことができるか検討する。その上で「人と人とのかかわり」を中心の軸とした「家庭総合」のカリキュラム 2 単位 70 時間の年間指導計画と教材開発を行う。

結果 国際的な人権教育の視点と「学習指導要領」の比較検討から、「家庭総合」の目標及び内容は、国際的な人権教育の方針に類似した部分が多々あり、高等学校家庭科の学習に同視点を組み込むことができると判断した。開発した教材は、文部省が提示した 5 領域を統合し、「人権教育の 9 つの視点」を導入し、生徒自身が「自己」と向き合うことを導入教材とし、誕生から死に至る「人の一生」というテーマ学習を設定した。ライフステージごとに特徴的な課題を取り上げ、各ステージで自分らしくどう生きるか、また他者と共にどう生きるかを考える学習である。人権教育の視点に基づき、「高校生の私」から学習をはじめ、次第に自己と他者、社会との相互的な「私と他者と社会の関係」を視点を変えながら捉えることによって、自分の社会の中での位置を学ぶことができるよう構成した。